令和五年　水無月　７４９号

むなかた

目次

沖津宮・中津宮春季大祭　3･2
夏越祭　大祓式　4
五月祭・浜宮祭・みこころ　5
神宝館だより　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よって、ＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）第六次評価報告書によれば、世界の平均地上気温（陸域＋海上）の上昇率は地域や海域によって異なり、海上と比べて陸上での上昇率が大きくなっているという。日本周辺海域において、大陸に近い海域の海面水温の上昇が大きいのは、この影響を受けている可能性が高いと指摘されている▼我が国の大陸に近い海域、当社の沖津宮、中津宮の鎮座する玄界灘においても、この問題は大いに関係する。二十五年前に奉職したころの沖ノ島港湾内は海藻類が多く海底が見えなかったが、現在は磯焼け等の影響で海底まで澄んだ状態で見え、明らかに熱帯系の魚と思われる魚種も目視できるなど、気候の温暖化や海水温の上昇による海中の変化を感じる。ここで問題なのはその変化のスピードである。たかが四半世紀でここまで変化することは異常であると言わざるをえない。海洋は大気に比べて変化しにくい特徴があり、元に戻りにくく長期化すると専門家は指摘している▼世界的にも、「パリ協定」やSDGs目標13（気候変動に具体的な対策）など進められているが、早急なアクションを起こさないと自然は待ってくれない。人類は自然に生かされているという根幹を忘れてはならない。　（中）

春季大祭 斎行

沖津宮と中津宮の春季大祭は毎年、旧暦の三月十五日に斎行している。（今年は五月四日）また玄界灘の沖合に位置する沖ノ島は、定められた日に渡島することが困難であることから、沖津宮の春秋の大祭は沖津宮遙拝所にて斎行されている。

まず、島内に鎮座する厳島神社、御嶽神社、沖津宮遙拝所にそれぞれ神職が赴き春季大

沖津宮遙拝所

沖津宮・中津宮

祭を奉仕の後、中津宮にて大島の氏子参列のもと、氏子を代表して沖西敏明氏が奉幣使をつとめ、巫女による浦安舞が奉奏された。当日は、天候が心配されたが祭典時には雨が降ることもなく、厳かに春季大祭が斎行された。

終了後、中津宮境内の土俵にて奉納子供相撲大会と年間の魚や野菜などを奉納していただいた氏子に感謝状の贈呈が行われた。

中津宮

夏越祭 大祓式
― 祭りに秘められた伝承 ―

大祓式は人が知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを祓い清め、明日からの生活をより良く過ごしていただくための神事であり、また広く地域や社会を祓い清める公の神事でもある。

六月(地域・習俗によって七月)は、かつて気温が高くなり伝染病や疫病などの蔓延しやすい夏を無事に過ごせるようにと、夏越祭と茅の輪くぐりの大祓式が行われるようになり、現在に至っている。

当社では三宮で斎行され、辺津宮では神門前に地元・田島地区の氏子の協力のもと茅を束ねて輪にした茅の輪が備え付けられる。中津宮も同じく大島の氏子らにより茅の輪が奉製される。その輪の中を八の字を描くように左・右・左回りと潜れば罪穢れ・災難が祓われるとされている。

この茅の輪くぐりは奈良時代初期に編纂された「備後国風土記」、また鎌倉時代中期に卜部兼方によって記された『釈日本紀』の「備後国風土記逸文」に由来が見られる。

素戔嗚尊が旅の途中、蘇民将来(そみんしょうらい)、巨旦将来(こたんしょうらい)という兄弟に宿を求めたところ、裕福な巨旦将来は拒絶し、貧しい蘇民将来は快諾し、一家をあげてもてなしました。素戔嗚尊は蘇民将来の一家に感謝し、「後の世に疫気あらば、汝、蘇民将来の子孫と云ひて、茅の輪を以ちて腰につけたる人は免れなむ」と茅の輪を授ける。この言葉の通り、一家はその年に流行した疫病を避けることができたと伝えられている。

現在でも茅の輪や蘇民将来という名前には災難除けの信仰が残っている。それはどれも、この蘇民将来兄弟の逸話に基づいている。

この神事は日本の夏の風物詩であり、古き良き伝統である。先人たちが疫病などを克服してきたというメッセージとして祭りは受継がれている。先人たちの歩んだ歴史、伝統に触れ、この夏を乗り越えていただければ幸いである。

宗像大社中津宮　夏越の大祓式

六月三十日　午後五時

宗像大社辺津宮　夏越の大祓式

七月三十一日　午後五時

五月祭・浜宮祭 斎行

恒例祭典として毎年、五月五日(こどもの日)に行なわれている五月祭と浜宮祭。古くはこの五月祭と放生会(現・秋季大祭)は年中最大の祭儀であった。正平年中行事(一三五〇年頃の祭事表)には五月会とあり、御神輿(おみこし)が出て賑わう盛大なものであったことから、みあれ祭(昭和三十七年再興)に続き昭和三十八年に再興されている。

昭和三十八年の再興の記事には、『当社が宗像郡(現在の宗像市・福津市)の総社であることから、郡内神社の多数の参加を得て、それぞれの氏神の神籬と紅白の幟を捧げ、五月祭と濱降り修祓の行事を併せ、先づ神湊の浜宮で、次いで江口の五月宮で行なった』とある。

みあれ祭が大島をはじめ宗像七浦の漁民により再興された祭りであるのに対し、この五月祭は宗像内陸の郡民の要望により再興されており、海と山、宗像地域の共同性を象徴する神事である。

みなこころ

今年も五ヶ月が経ち、早くも六月となりました。皆様お元気でしょうか。私は歳を取る度に一年が早く感じます。時の流れを体感し、少し焦ってまいりました。気温も暖かくなってきていよいよ夏がやって来ます。夏は日が長くて一日の明るい時間が多いので気分も晴れやかになりますが、最近の夏は暑さが厳しすぎてボーっとします。地球温暖化の影響でしょうか▼宗像は山がたくさんあり、海にも面していて自然豊かで、身近に地球を感じることができます。宗像大社もたくさんの自然に囲まれています。地球の危機を感じると神様も大変な目に遭っているようでつらいです。少しでも地球のためになるよう生活をしようと思い、リサイクル商品を買ったり、ゴミを細かく分別してリサイクルしたり、売上の一部を地球のために使う商品を購入しています。異常気象や自然災害が多いので、これからも地球のための行動を心掛けて生活しようと思います。(冨)

神宝館だより 74
八万点ノ国宝収蔵

能登半島視察記②

初日は羽咋市内を中心に視察した。筆者を含む福岡出発組は早朝から空路で石川県へ移動。金沢駅から羽咋駅までの電車内で東京・海外組と合流し、昼頃に羽咋駅に到着。羽咋市教育委員会の中野知幸氏にご案内いただき羽咋市内の遺跡・寺社を見学した。最初は羽咋市歴史民俗資料館を訪ね、寺家遺跡の調査成果と気多大社との関わりを中心に、市内の文化財や地形・歴史について学んだ。能登半島の入り口に位置するという地理的環境や、海岸部に発達した長大な海岸砂丘、そこから生まれた邑知潟といった自然環境の特徴から育まれた羽咋の歴史と文化は興味深く、古代から重要な地域であったことを理解した。気多大社の創建との関わりが想定される寺家遺跡は、日本海と旧邑知潟との間に発達し砂丘上に展開しており、その地形は宗像大社辺津宮と多く共通することを知り、興味が沸いた。

次に、古代の気多神宮寺の可能性をもつシャコデ廃寺を見学。調査で塔跡や回廊・南門遺構が確認されたが、出土土器は十～十一世紀のものなので、八・九世紀まで遡るか不明、創建時期や伽藍配置の確定が課題であるという。昭和初期に近隣の善正寺に運び出された同廃寺の塔心礎も見学した。

次に廃寺から旧邑知潟をへて向かいの砂丘上にある寺家遺跡を視察。遺跡の北側に八世紀中頃～後半に繰り返し大規模に火を焚いた大型焼土遺構がある特殊な遺跡で、他に例がないため注目されている。渤海使に関わる祭祀遺構と考えられてきたが未だ謎が多い。墨書土器等から神饌を用意した「宮厨」など、神社に関わる施設・組織があったことは間違いなく、神戸集落の存在も想定されており、学術的情報が限られる古代の宗像大社辺津宮の実態を考える際に大いに参考となる重要な遺跡であった。続いて、寺家遺跡と密接な関係が想定される能登国一宮、気多大社を参拝。創建は遅くとも八世紀に遡るが、古代の境内の位置、寺家遺跡との関係性は議論が重ねられている。（福）

※参考資料：能登現地視察報告（福岡県世界遺産課提供）

寺家遺跡 大型焼土遺構の地点
1辺2m以上の遺構。遺跡は現在整備中。

気多大社社殿
宮司様の御厚意で特別に昇殿参拝と社殿拝観が叶った

第742回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

噛み殺す咳のど飴をポケットに四つ忍ばすあなたの分も　早川　祥三

のど飴を君（夫人？）のためにも用意する作者の思いやりが良い。二句から詠み始め〈のど飴を～忍ばせる咳かみ殺すあなたの分も〉とすると君の姿も出る。

潮流のはげしきところで育ちたる若布は部厚く光沢を帯ぶ　佐々木和彦

見事な若布の歌、一読このような若布を食べたいと思った。このままでも良いが四句を〈分厚きわかめ〉と語順を変えると若布の実感が強くなるだろう。

和やかでなくともいいぞプーチンさん円卓会議いたすべくそろ　山﨑　公俊

ウクライナ戦争をとめたい作者。関係国が集まって武力ではなく議論を戦わせてほしいのだ。結句〈致すべくそうろう〉の略は手紙文のつもりだろう。

友亡くし米寿の仲間減少す悲しき知らせ初夏を待てずに　秋吉　嘉範

同齢の友人が亡くなったのだ。訃報を受け取るのは何時でも悲しいが初夏には何か思い出があったのだろうか。下の句を〈初夏を待たざる悲しき知らせ〉と。

遠く住む父へ贈ったサンキャッチャープリズムを共に見る日はもうすぐ　堺　玲子

父に会う日を楽しみにしている作者の気持ちが結句に出ている。サンキャッチャーはガラスのインテリアで室内に虹を作るものだ。四句は〈一緒に虹を〉。

いつのまにか周りは空家空地だけ庭に息づくツツジ眺めやる初夏　本田エリナ

同時期に建った家の多い地区では高齢化で空き家が増え、孤独を覚える作者か。結句の初夏はツツジの花で分かるので例えば〈ツツジを見やる〉などとしては。

焦げ色がつくまでがまんの肉を焼く自制というがここにもあった　吉﨑美沙子

ステーキなどフライパンにしばらく置くべき料理もある。〈～つくまでがまん〉と二句切れにし、下の句を〈肉を焼くにも自制がひつよう〉としてはいかが。

したり顔で四季が消えたと言いつつも日々の暮らしはエアコンだのみ　東　雅子

作者の自省の歌と読みユーモアを感じた。四季が消えたのは温暖化のためだと思いながらも暑さ寒さは我慢ができないのだ。三句は〈言いながら〉に。

お詫びと訂正

皐月（第748号）7ページ記載の短歌に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

（誤）決めているお賽銭には五十円終始御縁に他利足す五円

（正）決めているお賽銭には五十円始終御縁に他利足す五円　早川　祥三

◆選者詠

むかひ家のありし更地をうめて咲く松葉雲蘭（まつばうんらん）うすいろの花

梅の枝にあをき実さがすくちづけを受ける角度であぎとを上げて

第712回　俳句

稚拙句をはなほころんではやす壇　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名（令和五年四月）（順不同・敬称略）

三〇〇、〇〇〇円

福岡市　九電不動産株式会社

二〇、〇〇〇円

福岡市　三山　輝彦

一二、〇〇〇円

宗像市　佐々木孝太

一〇、〇〇〇円

糸島市　三山　輝彦
福津市　山﨑　公俊
行橋市　松本　輝美

五、〇〇〇円

大崎市　菅原　順一
川崎市　權野　武慶
宜野湾市　比嘉　夕子
京都市　浅田美也子
神戸市　黒田　関男
神戸市　細川　彩子
さいたま市　松本　雄太
佐賀市　花本　賢
佐賀市　江口　洋子
渋谷区　関谷　秀樹
渋谷区　関谷　麻美
吹田市　瀧口　友理
徳島市　田中　恵子
野田市　小林　正芳
松山市　渡部　聡

三、〇〇〇円

糸島市　國分　一美
大阪市　福地　昭義
相模原市　川井　大輔
ポーランド　高瀬さ由里
築上郡　入江聖奈子

二、〇〇〇円

安芸郡　岡田　英樹
芦屋市　武藤　健一
板橋区　池尻あや子
香取郡　山﨑　裕
久留米市　里村　康
下関市　村上　貴史
仙台市　新野　佳世
盛岡市　村上　隼人
八幡浜市　安藤　良太

6月 まつりごよみ

1日	総社月次祭	午前11時
	引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	
	宗像護国神社祭	
	末社仮殿遷座祭	午後7時45分
15日	総社月次祭	午前11時
	引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	
30日	大祓式	午後 5 時
	於：中津宮	

宗像大社

編集後記

巷で話題となっている「Chat GPT」。人間のように自然な対話形式でAIが答えるチャットサービスである▼膨大な情報から会話を生成してくるが、まだまだ不正確な部分もあるようで内容の真偽を見極める必要がある。しかし便利であることは間違いなく、AIへの指示や、人との折衝など人間にしかできないことを人間がやる時代にすでに入っているので導入の議論は加速していくのではないだろうか▼この「Chat GPT」をはじめとするAIとの向き合い方は乗り物に似ている。進む方向は自分自身で決め、その進む力を大きくさせてくれるものだと思う▼IT業界の技術革新の速さを表わす、「ドッグイヤー」という言葉があったが、それ以上の速度で変化する時代に乗り遅れたくないものである。（黒）

むなかた
水無月（みなづき）　第749号
2023年6月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811－3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62－1311（代）　https://www.munakata-taisha.or.jp/